

平成 21 年 6 月 12 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520634

研究課題名（和文） 近代日本における身装電子年表の構築—身体と装いの文化変容

研究課題名（英文） A Digital Chronology of the Fashion, Dress and Behavior from Meiji to early Showa periods(1868-1945) in Japan: Acculturation of body and costume.

研究代表者 高橋 晴子 (TAKAHASHI HARUKO) 大阪樟蔭女子大学・学芸学部・教授

研究者番号：10247885

研究成果の概要：近代日本の身装文化は、伝統的な和装文化と外来の洋装が拮抗し、現代の身装文化に結びつく様々な問題を提起しているが、十分な研究およびデータベースが存在しなかった。そこでつぎのふたつの条件①「ある時期（近代日本）、これこれの人々はどのような身装によって生きていたか」という具体的イメージを、文字と画像によって時系列に表現する、②近代日本の身装にかかわる文化変容のステップとなる重要テーマを同時に表現する、を設定して身装電子年表を作成した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	570,000	3,970,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：近代日本、文化変容、服飾、装い、身体、しぐさ、化粧、髪型

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

1984年より、世界の衣服とその文化にかかわるデータベース〈服装・身装文化データベース〉を作成してきた。現在、国立民族学博物館のウェブサイトより公開している。このデータベースを作成するにあたり、多くの文献資料を収集・分析してきた。収集した資料のなかには、近代日本における新聞のアーカイブズ資料が大量にあり、このアーカイブズ資料を利用することによって、研究の欠落している近代日本の身装-身体と装い-文化に関する電子年表が作成できると考えた。

従来、冊子体の総合年表あるいは専門年表の風俗・文化に関連する記述からは、その時々の出来事や流行のいくつかの例は理解できても、ある文化の基盤となる日常生活の一般的様相を把握するのは難しい。加えて、「これが当時の人々の服装だ」ではなく、これもそうだしあれもそう、というのが一般の実相である。このような衣文化の態様を前提として身装の年表を実現するには、必要に応じて、ある事柄に関するテキストと画像を表示できる電子年表の構築が最も適していると考えたのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は次の通りである。

- (1) 「ある時期（近代日本）、これこれの人々は、どのような身装によって生きていたか」という具体的なイメージを、文字と画像によって時系列に提供することである。
- (2) 時系列に示された事柄と画像が語る文化変容を確認し、現代の衣生活に至った過程を明らかにすることである。

3. 研究の方法

本年表は、つぎの課題を明らかにすることにより、インターネット上での公開を実現した。

- (1) 年表の枠組みの設定、(2) 事柄に関する文字資料の収集・分析、(3) 文化変容にかかわる重要テーマの抽出、(4) 画像の収集・分析 (5) システムの構築 の5点である。

(1) 年表の枠組みの設定

一般の総合年表における風俗の事柄に関する記述の不備な点、すなわち時間の性質の異なる事柄を区別せずに記述することから起こる混乱を回避するために、本電子年表では、事柄を次の3つの欄-〈事件〉、〈現況〉、〈回顧〉に区分して記述することを前提とする。

①〈事件〉- 普通の意味での年表であり、特定のある日時に起こった事件を正確な時系列で記述する。

②〈現況〉- 事件のように事の始まりと終わりがはっきりしない事柄を記述する。その記録

の時点における、身装の実体を具体的に知るための手がかりを文字と画像によって提供する。その時代に生きる人々の具体的なイメージを提供するとともに、その時代の身装の基底的、かつ総合的な情報も提供する。

③〈回顧〉- 正確な時系列の枠（暦年枠）には入れにくい文字情報を主題別、たとえば「身体感・体型」、「着装」などの主題別にそって、おおまかな時代順で提示する。この主題は文化変容にかかわる重要テーマに含まれるものである。

(2) 事柄の収集・分析

採用する事柄を、同時代資料より選定する。平成17年度までにすでに選定されていた65主題にそってデータを抽出する。

採録の対象となった資料は、同時代資料に限定し、主な資料は次の新聞と雑誌である。『東京日々新聞』、『曙新聞』、『郵便報知新聞』、『毎日新聞』、『朝日新聞』、『読売新聞』、『平仮名絵入り新聞』、『国民新聞』、『都新聞』、『やまと新聞』、『女学雑誌』、『以良都女』、『風俗画報』、『家庭雑誌』、『都の花』、『新小説』および各種百貨店カタログ等。すべての事柄は、出典を明らかにしている。さらに、電子年表においては、より詳しい事柄をウインドウを開けることにより閲覧できる。

(3) 文化変容にかかわる重要テーマの抽出

資料を収集・分析しながら、あるいは参考とした同時代図書資料より、文化変容にかかわる33テーマを抽出した。これらのテーマは、「身装」の概念に合致しており、身体と装いのみならず、これらを取りまく情景・環境に関するテーマ、たとえば「道路・街」、「照明」なども含んでいる。また、本年表においては、このテーマを検索キーとしての検索機能を備えている。

(4) 画像の収集・分析

画像は、〈現況〉に関連した画像を、原則として同時代資料より採録した。収集の基準とした主題は、「景観」、「未婚女性」、「既婚女性」、「男性」、「子ども」、「美しい人」であり、風俗的標準と考えられる事例を年ごとに選択した。とくに写真資料の絶対量が少ない1900年以前については、新聞・雑誌の現代物連載小説の挿絵が風俗画像資料として貴重であることを検証し、採録の対象とした。

(5) システムの構築

システムの機能としては、つぎの要件を満たしている。

- ① タイトル、年、キーワード、内容の全文検索が可能。
- ② 年表のスクロールとズーム、および画像のズームが可能。
- ③ 画像中の一部のアノテーションの表示が可能。
- ④ ほかのデータベース、作成予定の身装画像

データベースへのリンクが可能。

システムは、堀内カラーの iPallet/Kumu を採用した。このシステムは、コンピュータの専門家でなくてもデータベースの構築から発信までを簡単に実現することができる。WindowsXP, Vista, MacOSX を OS としたパソコン上にて、IE7 及び Mozilla Firefox3 で閲覧可能なシステムである。

4. 研究成果

(1) 単行本

平成 19 年に単行本「年表 近代日本の身装文化」(三元社 551p. 索引 xxxiip.) を刊行した。本書は、1868 年(明治元年)～1945 年(昭和 20 年)までを対象として、〈事件〉、〈現況〉、〈回顧〉および現況の画像によって構成されている。

(2) 電子年表

単行本と並行して構築していたシステムは、上記で示した機能を整え、すでに公開されている〈服装・身装文化データベース〉(http://www.minpaku.ac.jp)の一部として公開予定である。本電子年表では、上記の単行本より文字情報は約 1.3 倍に増加している。

なお、画面の面積の関係から〈回顧〉に関するデータは掲載していない。今後、リンク機能などを利用しての掲載方法を考えたい。現在の文字データは約 13,000 件、画像は、約 400 枚である。

本電子年表の公開により、人文・社会科学領域での幅広い研究・教育の資料としての利用が期待されるばかりでなく、文学、演劇、映画などのシーン作りへの実用的貢献が期待できる。

以下、1873 年(明治 5 年)の例を用いて、本年表の構造等を示す。

①画面の構成

[検索ボックス]



[年代表示] [現況] [現況画像] [事件] を表示

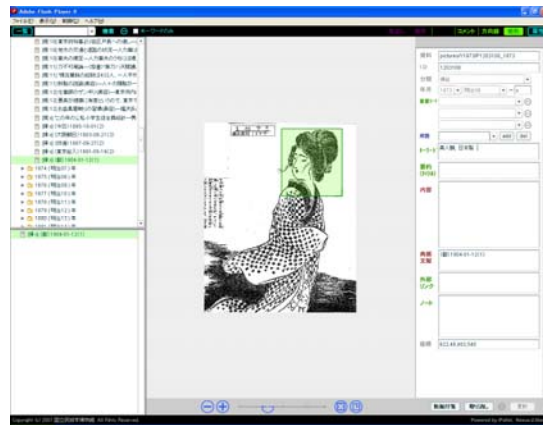
②より詳しい事柄の表示例



③画像の表示例



④画像の一部へのアノテーション付与機能



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

主たる論文

(1) Haruko, Takahashi.

An Image Database of Fashion, Dress, and Behaviour from the Meiji to early Showa Periods(1868-1945) in Japan: The role of the Pictures in Newspaper Serial Novels as a Source of Data. Proceedings of 6th International Conference of Design History and Design Studies. 2008, 3p. (査読付き)

(2) Haruko, Takahashi.

A Digital Chronology of the Fashion, Dress and Behavior from Meiji to early Showa in Japan. Humanities 2008. 2008, 2p. (査読付き)

(3) 高橋晴子. 近代日本の新聞連載小説挿絵—身装情報としての評価. アート・ドキュメンテーション研究. 15 号, 2008, 18p. (査読付き)

(4) 高橋晴子. 身装電子年表の作成に関する基本的課題 3—近代日本の身装文化における重要テーマ. 大阪樟蔭女子大学 (学芸学部) 論集, 44 号, 2007, 17p. (査読なし)

<http://jdream2.jst.go.jp/jdream/action/JD71001Disp?APP=jdream&action=reflink&origin=JGLOBAL&versiono=1.0&lang-japanese&db=JSTPlus&doc=07A0455957&fulllink=no&md5=714bff6a84fd4b058ca7eae91ede95ff>
http://nels.nii.ac.jp/els/110006239820.pdf?id=ART0008260025&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1245416799&cp=

関連論文

(5) 中川隆, 高橋晴子. 民博服装・身装文化 (コスチューム) データベースの拡がり—研究支援ツール nihuONE への移植. 情報管理. 51 巻 7 号, 2008, 1-9. (査読付き論文)

<http://ci.nii.ac.jp/naid/130000072651>
http://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/51/7/51_469/_article/-char/ja

(6) 中川隆, 高橋晴子. 民博コスチュームデータベース (MCD) の過去・現在・未来—集中型システム (nihuONE) の試用を通して. 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集. 2007 巻 15 号, 2007, 229-236. (査読付き)

[学会発表] (計 6 件)

(1) Haruko, Takahashi.

Workshop Fashion and Architecture. 6th International Conference of Design History and Design Studies. 2008/12/28, 京阪なにわ橋駅アートエリア.

(2) Haruko, Takahashi.

An Image Database of Fashion, Dress, and Behaviour from the Meiji to early Showa Periods(1868-1945) in Japan: The role of the Pictures in Newspaper Serial Novels as a Source of Data. 6th International Conference of Design History and Design Studies. 2008/12/28, 大阪大学中之島センター.

(3) Haruko, Takahashi.

A Digital Chronology of the Fashion, Dress and Behavior from Meiji to early Showa in Japan. Humanities 2008. 2008/6/27, University of Oulu(Finland).

(4) 高橋晴子. <服装・身装文化データベース>の概要: インターフェース、入力規則、統制語彙表を中心として—アート・ドキュメンテーション関西地区部会. 2008 年 5 月 11 日, 大阪樟蔭女子大学.

(5) 高橋晴子. 近代日本の「身装—身体と装い」を情報化. 情報科学協会インフォ・スペシャリスト交流会. 2008 年 1 月 11 日, 凌霜クラブ (大阪).

(6) 中川隆, 高橋晴子. 民博コスチュームデータベース (MCD) の過去・現在・未来. 人文科学とコンピュータシンポジウム. 2007 年 12 月 14 日, 京大会館.

[図書] (計 1 件)

高橋晴子. 三元社. 年表・近代日本の身装文化. 2007, 551p., xxxiiip.

http://webcatplus-equal.nii.ac.jp/libportal/DocDetail?txt_docid=NCID%3ABA81711723

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 晴子 大阪樟蔭女子大学・学芸学部・教授 (研究者番号 10247885)